

# 他者との関わり合いから生まれるコミュニケーション力の育成 －「いいところカード」と「ハンドボール」を題材として－

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
渡辺 裕之

## 1. はじめに

### (1) 教職大学院進学理由

私は大学時代だけでは、教師としての専門性・力量が身についたとは言えなかったため、実践をより多く行うことができる教職大学院への進学を決めた。愛知教育大学教職大学院では「理論」と「実践」の融合を掲げており、大学院での学びを実習校の実態に合わせて実践を行うことができた。大学院1年次では応用領域の先生方と一緒に理論を中心に学ぶことで、実際の現場や児童生徒の実態を理解しながら実践的に学習することができた。

「学級づくり」「授業づくり」「学校づくり」に関する授業をそれぞれ履修したが、主に学生が自ら考え、発表し、全体で検討しながら共通理解する形がとられていた。他教科専門の先生や学生の多くの意見を聞くことができ、自分の中で生まれた疑問や不安というのが授業内で自信に変わったように思える。また、他者の意見に聞く耳をもち、協調性を大切にすることを学んだが、これは実際に現場で先生方と共に、同じ方向性をもって子どもたちへの指導にあたる際に役立つだろうと考えられる。この2年間の学びは大変貴重な経験となり、その中でも実際に私自身で多くの実践を行えたことに意義があると考えられる。

そして、多くの貴重な出会いに支えられて2年間の学びを無事に終えることができたことに感謝したい。そこで生まれた、「早く先生方のような教師になりたい」という気持ちや、教職に対する使命感、責任感を今後も持ち続けていきたい。

### (2) 現在の教育界が求める力

少子化や核家族化が進む中、ひきこもりや不登校の児童生徒が増えている。その原因の一つとして、人との関わり合いの機会が少なくなっていることが挙げられている。社会性や人間関係力、自己理解など、集団生活において身につける力が現代の子どもたちには不足している。他者とのどのように関わっていいのかわからない、集団に入りたがらないといった行動や言動を解消する必要がある。また、学校教育には「望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、社会性の育成を図る」<sup>1)</sup>ことが求められており、人間関係能力の形成に大きく関わっている。

さらに、中学校学習指導要領保健体育編においては、「それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとするとともに、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力」などの「資質や能力を育てるためには、体を動かすことが、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資する」<sup>2)</sup>と示されている。これが、保健体育科の目標の一部でもある「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」にあたりとされている。

ここから、私の専門教科である保健体育科においてもコミュニケーション力を育むことが期待されていることが分かる。運動やスポーツは、コミュニケーションを使って行うものが多い。特に、身体を動かしながらのコミュニケーションは気持ちも緩み、他者とも関わりやすくなるため、効果も高いといえるだろう。

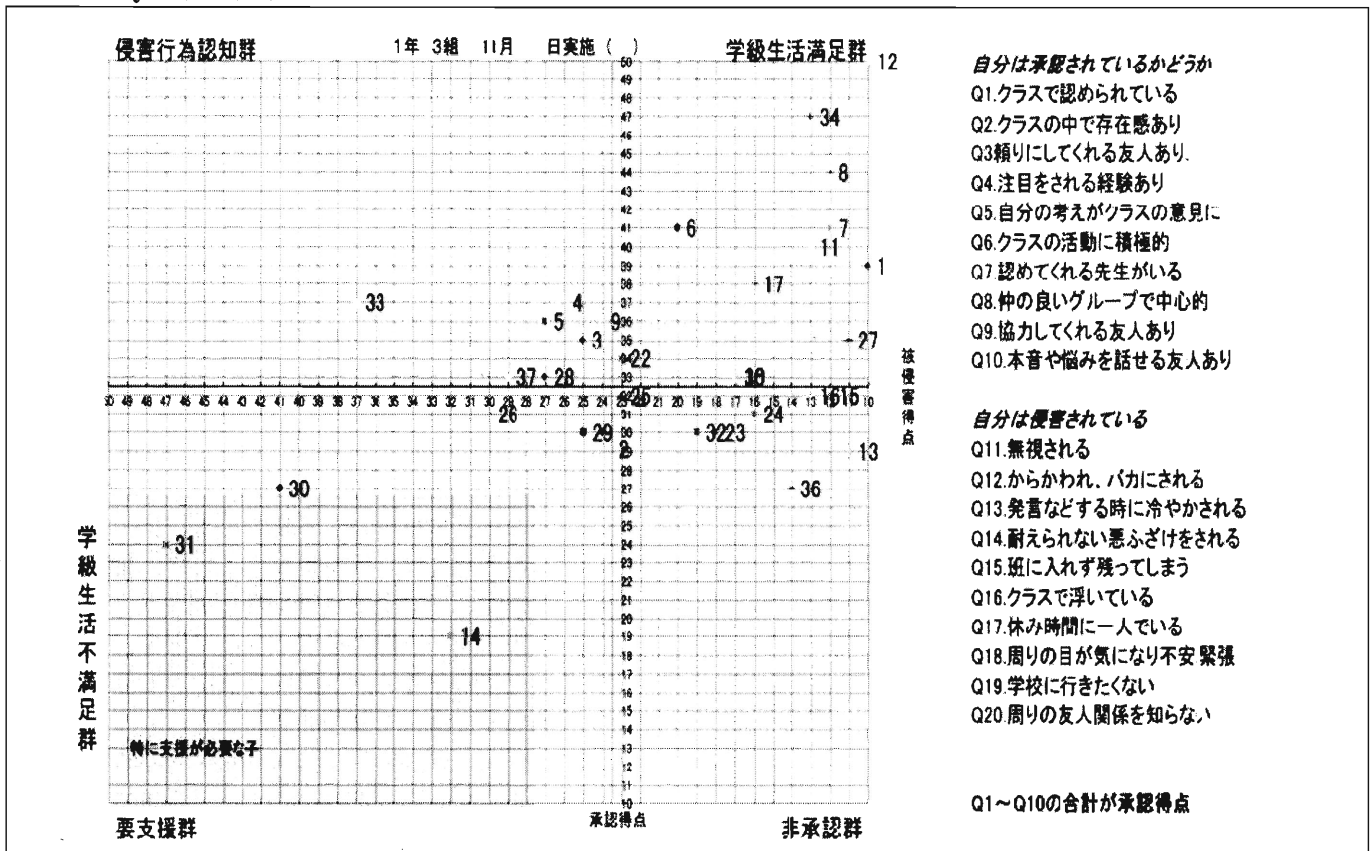
言語を媒介として行うコミュニケーションは、人と人とのつながる手段の一つでもあり、感性や情緒、感情などとも深く関わりがある。これらから、様々な場面において他者との関わり合いから生まれるコミュニケーションを通して、人間関係を築いていくといえる。

## 2. テーマ設定の理由

### (1) Q-Uの調査結果から見たこと

学校サポーター活動を行っていた当時(2010年11月実施)のQ-U調査の結果を拝見させていただいた。図表1の学級では、半数程度の生徒は学級生活に満足していることが分かるが、自分を他者は受け入れてくれない、仲間の輪の中に入れない、他者と上手く関われないなど学校生活に不満を感じている生徒も存在する。このような生徒は、数の多い少ないに関わらず、どの学校・学級においても存在していると考えられる。そこで、どの学校・学級においても他者との関わり合いながら、人間関係を形成したり自己や他者を理解したりすることが必要であると再認識した。

図表 1 Q-U 調査結果



(2) 学校サポーターを通して感じたこと

現在子どもたちに求められている力や学校の実態を考えた際に「コミュニケーション力」が一つに挙げられると考えている。私自身、実習が始まる前の大学院1年次の学校サポーター活動において、特に学校行事などで周りの仲間が盛り上がる中でも孤立しがちの生徒の存在が目についた。確かにこの状況では孤立しがちの生徒のコミュニケーション力が低いと考えられるが、その一方でその生徒たちを引き込む、誘うことができない周りの生徒たちもコミュニケーション力が高いとは言えないだろう。生徒たちは特定の生徒としか人間関係を築こうとしておらず、やや閉鎖的な空間で過ごしている様子が見られた。これは現代の中学生における課題の一つであると考えられる。

(3) 本実践のねらい

他者との関わり合いの中でコミュニケーションが生まれ、互いに認め合い、励まし合う人間関係が生まれることを期待して設定した。集団で生活することで、生徒たちが楽しさや喜びを感じ、満足感が得られるように、工夫や試行錯誤を行いながら実践してきた。また、自他を理解し、自尊感情を高め自信をもって行動してほしいという願いもあった。

以上のことを考えると、生徒個々の差はあるが、思春期の葛藤が生まれる時期に育てていく必要がある力の一つであるといえる。そこで、今回のようなテーマ

を1つの大きな柱として設定し、教師力向上実習Ⅰでは学級において、また教師力向上実習Ⅱでは保健体育科においてコミュニケーション力の育成についての実践を行っていくこととした。

3. 「いいところカード」の実践を通して

—教師力向上実習Ⅰ—

4月1日～4月30日まで約1ヶ月間行わせていただいた。学校・学級の立ち上げの時期から携わらせていただいたため、実際私が現場に出た時に大変役立つだろう。職員会議や教科部会、学級編成等の学年会などにも積極的に参加させていただいた。また、前年度の学校サポーター活動の際に受け持っていた学年、学級とは異なる生徒を指導するため、私自身も関わり合いを大切にしながら生徒と人間関係を作り、実習を進めていくように心がけた。実習テーマは今回の終了報告課題と同様であり、具体的方策として教師力向上実習Ⅰでは主に「いいところさがし」を行った。

(1) 実践のねらい

進級する4月はクラス替えが行われる。これまで人間関係を築いてきた仲間との別れでもあり、新たな仲間との出会いでもある。生徒たちの様子を観察すると、これまで仲の良かった特定の友だちを求めて放課等は

他学級に行き来する姿が見られた。また朝の会や帰りの会で、日直の生徒や学級役員の生徒が、毎日学級の全体の前で話すが、聞いていない生徒も少なからず見られた。そこで、朝の会や帰りの会の時間を学級指導という観点から有効的に使いたいと考えたとともに、今回のテーマである思いやりやコミュニケーションの育成の場として活用できるのではないかと考えた。

これまでの人間関係だけに留まるのではなく、新たな仲間との出会いを大切に、まずは担当学級内でのコミュニケーションおよび人間関係形成を活性化させていきたいと考えた。そこで、「いいところカード」を利用し、毎日他者のいいところを探して自己および他者を認めていく実践を行っていくことにした。また、私が考えたいいいところカードのねらいのまとめは以下の通りである。

- ① 仲間を知り、良さを見つけ素直に認める。
- ② 仲間から認められた自己の良さを受け入れる。(自己肯定感の育み)
- ③ コミュニケーションをとりながら人間関係、信頼関係を築く。
- ④ 普段の生活において仲間と積極的に関わり合うようになる。

毎日実践を行うことで、少しでも多くの学級の仲間と関わり合いをもたせたいと考えた。最終的に、学級開きの際に初めて行った自己紹介よりも、自信をもって全体の場で自己紹介(他己紹介)を行えるようにしたいという願いから実践した。

## (2) 実践方法と経過

今回実践の方法としては、私が朝の会でその日のペアを伝え、学級内の生徒同士で毎日「いいところさがし」を行った。また、ペア同士は必ず1回はコミュニケーションをとるというルールを設定した。この内容を帰りの会でいいところカードに記入し、朝の会で直接交換した。最初は照れていた様子が見られたが、仲間にかかれた内容を見て素直に嬉しいという気持ちを抱いているようであった。記入したいいいところカードは私が朱書きを行い、掲示物として教室の後部に掲示させていただいた。また、朝の会であらかじめ指名する生徒を決めておき、書いてもらった内容を発表する機会をとらせていただいた。生徒たちは徐々にではあるがコミュニケーションをとるようになり、帰りの会の記入にも慣れていった。

しかし、資料1, 2のように仲間の「いいところ」と言われると生徒たちは、「明るい」「面白い」「元気」といったどこか抽象的な内容が多く見られた。また、いいところカードに慣れてくると、誰に対しても同じ内容を書いてしまったり、朝の会で発表した内容をそ

のまま記述してしまったりする生徒も現れた。

### 資料1 抽象的な生徒の記述①

明るくて元気があまるところが  
いいと思いました。

### 資料2 抽象的な生徒の記述②

元気で明るい  
おもしろい。  
クラスのためにがんばっている

生徒たちには、相手のことを考えて記入できていることを伝えた上で、「具体的な記述」ができるように全体や個々に声をかけていった。仲間の行動や会話から気づいたことを具体的に書くように働きかけた。その結果、資料3, 4のような「〇〇の時に〇〇していたところ」「〇〇と声をかけていた」など、抽象的な記述から具体的な記述へと変化してきた。これは、仲間のことを毎日観察し、ある行動や言動に注目して、いいところを探そうとしている証拠であるといえる。生徒たちはこのように、だんだんと仲間との関わり合いを図り、人間関係を築きながら自他を尊重していった。

### 資料3 具体的な生徒の記述①

体育が終わったあと、ロッカーの中  
の教科書をずらしていたので  
いいと思いました。

### 資料4 具体的な生徒の記述②

昼放課などは、おもしろい事を  
やったりして周りを笑わせたため授業は  
真剣にやったりしてけじめがつけられていて  
いいと思います。 これ具体的に書かなくて

### (3) 研究実践 ー学級活動の時間を使ってー

#### ① 題材名

「いいところカードを使って他己紹介をしよう」  
ー仲間を知り思いやりのある学級へー

#### ② 題材の目標

- ア 日常生活場面における仲間との関わり合いを振り返り、仲間を理解しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- イ 仲間との関わり合いを通して自分の存在を認め、自己肯定感を育む。(思考・判断)

#### ③ 題材の構想にあたって

現代の子どもは、自己肯定感や自尊感情が低いといわれている。それと同時に、大人、子どもに関わらず誰もが他者に認められたいという感情を抱いている。他者に自分の存在が認められることで、自己肯定感や自尊感情が育まれていくと考えられる。

4月ということもあり、どの学級内もまだ若干の緊張状態にある。本学級の生徒たちは全体的に明るく、特に大きな問題もなく毎日の学校生活を過ごしている。しかし、人間関係においては、仲の良い生徒が集まってしまう、新たな仲間と関わる姿があまり見られない。そこでまずは、学級内の仲間を「もっと知る、関わり合う」ということを大切にしてほしいと考え、毎日帰りの会に「いいところカード」を用いて、学級内の仲間の「いいところさがし」を行ってきた。その日の朝にペアを発表し、必ず一度は話すことをルールとした。カードは毎回、記入した生徒同士が交換するのだが、その様子を見ているとどこか照れくさそうな笑顔で交換している。

以上のことから、学級内の仲間と新たに関わりたい気持ちはあるが、自分からはなかなか話しかけることができない生徒がいることや、そのような関わり合う場が足りないのではないかと考えた。また、帰りの会でカードを一度集めて、朱書きを行ってから朝の会で直接交換し、具体的に書くことができているカードを発表する場を設け、その後教室に掲示を行った。

#### ④ 本時の指導にあたって

本時では、これまで実践してきた「いいところカード」を用いて、隣のペアの他己紹介を行う。仲間認められた点を他者(仲間)に紹介してもらうことで、自分の長所が自信をもって言えるようになってほしい。もちろん、本時の授業だけで自己肯定感や自尊感情が育まれるとは言えないが、これをきっかけとして、仲間認められたことで自分自身を改めて知り、その上で今後、仲間を認め合う思いやりをもった行動や言動につながってほしいと考えている。

#### ⑤ 工夫点

今回の授業の実践で私なりに工夫した点は、生徒全員に他己紹介をさせたということである。授業時間は限られており他の内容の時間が少なくなってしまったが、それでも一生懸命に書いた仲間に対する内容を全員に言わせたいと思った。そうすることで、全員で毎日こつこつ行ってきた取り組みを確認することができると同時に、全体の場で発表するという良い機会を生徒たちに与えられたのではないだろうか。

また、図表2のワークシートを用いて授業実践を行ったが、生徒たちは一生懸命書いて発表に臨んでいた様子がうかがえる。私も授業中、机間指導を行いながら朱書きを行ったが、生徒たちは高い意欲をもって取り組んでいた。

図表2 研究実践ワークシート

## いいところカードで他己紹介!

~2組の仲間たち~


番 名 前 \_\_\_\_\_

**(1) 隣の子のいいところカードをまどめよう。**

私の隣の \_\_\_\_\_ くん・さんを紹介しましょう。

- ①私が見つけたいいところ
- ②仲間が見つけたいいところ

**(2) 2組の仲間ほとんどいいところが多いですか?**



**(3) これからどのように学級の仲間と関わっていききたいですか。**

#### (4) 実践の成果と課題

##### ① 成果

実践の成果については、以下のようにまとめることができる。

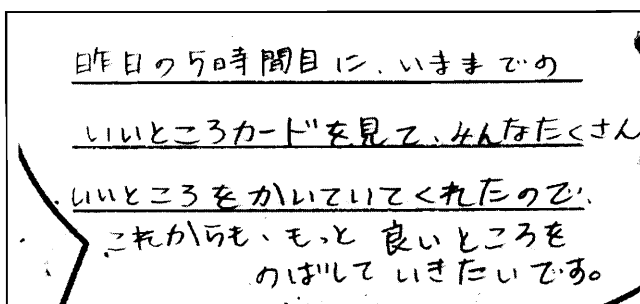
- ア 人間関係形成のきっかけ作りができた。
- イ 他者を見る目を養い、具体的ないいところの記述ができるようになった。
- ウ 自己肯定感が高まった。

4月という新たなスタート時に、このような人間関係を形成するきっかけを与えることができたことは非常に意味のあった実践であったように思える。学級の仲間とコミュニケーションをとることで、生徒たちは徐々に人間関係力コミュニケーション力をつけることが分かった。それは本来、自然と子どもたちが行っていくものかもしれないが、教師側が生徒同士のコミュニケーションの場を与えることや、人間関係づくりを手助けしていくことも大切な仕事の一つであると考えられる。

いいところさがしを行うことで他者を理解し認めるだけでなく、他者から認められ自己の良さや自己の存在意義を認識することで自己肯定感を養うことも同時にできると考えられる。思春期である中学生は他者との差が非常に気になる時期でもある。特に、問題行動がある生徒は他者に褒められるという経験が少ない。

生徒たちの感想では、「気分が良かった」や資料5のように「自分の良いところをもっと伸ばしていきたい」という記述があった。これは他者から認められ、自己の能力をさらに伸ばしていきたいという自己実現の欲求が生まれたことが分かる。また、「みんなの良い所を生かして明るいクラスになるといい」という生徒の記述から、自己だけでなく学級のことを考えていることが分かる。学校や学級など全体を考えられる生徒も現れたことは、非常に嬉しさを感じた。今後、この生徒のリーダーシップも伸ばしていきたいと感じた。

#### 資料5 いいところさがしの感想



#### ② 課題

実践の課題については、以下のようにまとめることができる。

- ア 1年間を見通して実践を行うことができなかった。
- イ 今回の手立てが、生徒全員に効果的であったとは言えなかった。

いいところさがしは、日常的に行うことができるため、年度初めである4月だけで終わるのではなく、行事ごとや学級内の人間関係に不安を感じた場合など定期的に行う必要があるように感じた。今回1年間を振り返ってみると、実際にはなかなか時間がとれず、計画していたいいところさがしを行うことはできなかつ

たが、担当の先生のご助言もいただき、行事などで仲間に対して頑張っていたことを記入することなどではできた。このように、内容を適宜生徒の実態に応じて変えるなどの力も身につけていく必要がある。そして、担当の学級や生徒を1年後にどのように成長させたいかという見通しをもって学級経営案を作成し、ブレのない指導にあたることが大切になる。

また、学級の生徒全員がいいところさがしに参加できたが、生徒によっては個人的な支援を行っても意欲が向上しなかった。年度初めで生徒の実態を把握しきれていなかったという課題もあるが、個々の生徒へのアプローチ方法を私が身につけていなかったことも挙げられる。他者と上手く関わらずコミュニケーションの力が低い生徒に対しては、支援も多く行うことで具体的な記述が増えてきた。しかし、コミュニケーション力が比較的高く、学習意欲の低い生徒に関しては「面倒である」といった気持ちから、適当に書いてしまう場面が見られた。

#### 4. ハンドボールの実践を通して

##### —教師力向上実習Ⅱ—

9月12日～10月7日の1ヶ月間行わせていただいた。今回の実習は教科教育での実践を行うため、私の専門教科である保健体育で行った。9月上旬は体育大会もあり、体育の授業も全校ダンスや個人種目・団体種目の練習の時間にあてられた。実際の体育大会の準備・運営にも携わらせていただき、体育部の一員として行事を動かすという貴重な経験ができた。

体育大会が終わると、実習校の体育科年間指導計画ではハンドボールを行う予定であり、1単元(7時間完了)の全てを私に任せていただいた。各学級の生徒の実態を考えながら、単元指導計画を立て、実践を行っていった。

##### (1) 9月における生徒の実態とチーム編成

今回ハンドボールの実践を行う生徒は、中学校2年生の女子である。1・2組、3組、4・5組の3つのグループの全ての授業を行った。また、生徒たちはこの頃から徐々に小集団ができ始め、行動を共にする人間関係は構築され、決まった生徒同士で生活しているようであった。学級内や男女間の関係は良好で、仲間外れの生徒なども少ない。

ハンドボールのチーム編成は、担当の先生方にご助言をいただき、人間関係を考慮しながら技能の力が偏らないように私自身が決めることとした。その際、ハンドボールと似ているバスケットボールの経験者を分けて設定した。また、リーダーシップのある生徒も均等に分けた。

## (2) ハンドボールの特性と中学生

生徒たちは、中学校1年生でバスケットボールを経験している。実習校ではハンドボール部もないため、スポーツテストのハンドボール投げしか経験したことがない。球技の領域でゴール型の運動は、バスケットボールやサッカーがあるが、ハンドボールは比較的マイナーである。ハンドボールは走・跳・投の動きを中心に、仲間と協力しあいながらパスやドリブルなどを使ってボールをコントロールして相手コートに侵入しシュートを決めたり、グループに応じた作戦を立てて攻防を楽しんだりすることができるスポーツである。また、ボールが小さく・柔らかい素材であるため、ボール操作がしやすく、ゴール型の球技の中では誰でも協力して活動しやすいスポーツであるとも考えている。そこで、グループごと練習を工夫して、個々のいいと

ころを生かしたり、互いの苦手な部分を補い合ったりするなど、コミュニケーションを取りながら活動する姿が見られるのではないかと考えた。

## (3) 単元指導計画

### ① 単元名

「球技・ハンドボール  
ー仲間と話合って作戦を立て、ゲームで生かそうー」

### ② 単元の指導目標

- ア ルールやマナーを守り安全に留意して活動し、ハンドボールの楽しさや喜びを味わおうとしている。 (関心・意欲・態度)
- イ グループでの話し合いなどから、個やチームの課題に応じた練習や作戦を工夫し、協力して活動することができる。 (思考・判断)

図表3 ハンドボール単元指導計画

段階	時間	学習活動・学習内容	ねらい	評価規準 [評価方法]
習得1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリエンテーション, チーム編制</li> <li>○ 試しのゲーム</li> <li>○ 本時のチームの振り返り (毎時実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の進め方や目標, 評価方法を理解する。</li> <li>・ ハンドボールの動きを実感し, 学習意欲を向上させる。</li> <li>・ チーム内でコミュニケーションをとり, 課題を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の目標を理解し, 学習の見通しを立てている。</li> <li>・ 自己の能力に応じて, 積極的にゲームに取り組んでいる。</li> <li>・ チーム内で積極的に話し合い (振り返り) に参加している。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パス練習 (チーム)</li> <li>○ シュート練習 (コントロールゲーム)</li> <li>○ 速攻</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的技能を習得しながら, パスの回数を競い合う。</li> <li>・ 基本的技能を楽しく習得することができる。</li> <li>・ シュート練習を生かして, パスを受けてシュートをする動きを身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間と連携したパスを行い, 競い合いながら取り組んでいる。</li> <li>・ 基本的な動きの練習において互いに声をかけ合い, 励ましあって練習することができる。</li> <li>・ ノーマークになるような動きをしてシュートが打つことができる。</li> </ul>
習得2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パス練習, シュート練習 (毎時実施), 速攻練習</li> <li>○ 的当てゲーム</li> <li>○ タスクゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し練習することで, 技能を身につけさせゲームで生かす。</li> <li>・ パスを回し, シュートをする動きを楽しみながら行うことができる。</li> <li>・ パスをつなぎ攻撃することで, 実際のゲームにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に身体を動かしながら, 仲間と連携して練習している。</li> <li>・ 空いたスペースに走りこむなど, ボールを持たない時の動きを工夫している。</li> <li>・ 前方に素早くボールを運ぶことができる。</li> </ul>
活用1	4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ チーム練習 (練習計画・作戦タイムを含む)</li> <li>○ ゲーム (3対2, 5対4, 6対5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の練習を自分たちで計画し, ゲームで生かすことができる動きを身につける。</li> <li>・ 実際のゲームに近い形でゲームを行い, 攻撃の楽しさを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作戦や目標を立て, 仲間と関わり合いながら教えあったり協力しあったりしている。</li> <li>・ チーム内で立てた作戦や目標をもとに, 空間を生かしたゲームを展開することができる。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パス・キャッチ・シュートの技能チェック</li> <li>○ チーム練習, ゲーム (6対5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンドボールの基本的技能 (ショルダーパス・キャッチ・シュート) が身につけているか確認する。</li> <li>・ チームの課題をもとに, 作戦を立ててゲームで生かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームで生かすことができる基本的技能を身につけている。</li> <li>・ チームで話し合いを積極的に行い, 作戦や目標を立て, 練習やゲームに生かしている。</li> </ul>
活用2	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リーグ戦</li> <li>○ まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームの作戦を生かして, ハンドボールの特性や競い合う楽しさを実感する。</li> <li>・ チーム内で単元の振り返り, まとめを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間と連携して, 作戦や目標を生かした攻防を展開することができる。</li> <li>・ チームや自己の活動を振り返り, 学習全体のまとめができる。</li> </ul>

- ウ ボールをしっかりとキャッチし、周囲の状況に応じてパスやドリブルを使ってボールをつなぎ攻撃をすることができる。(技能)
- エ ハンドボールの特性やルール、学習のねらいを理解し、チームの目標や作戦をまとめたり発表したりすることができる。(知識・理解)

### ③ 単元構想にあたって

実習校では、ハンドボールは2年ぶりにカリキュラムに導入され、初めて行う生徒たちがほとんどである。そこで、ハンドボールを通して仲間とともに楽しみながら楽しさを味わわせたいと考えた。技能面ではボールをしっかりとキャッチすることに重点を置き、球技に苦手意識がある生徒も意欲的に活動できるように練習を計画した。また、ゲーム形式の練習においては、アウトナンバーの状態でも常に攻撃側が有利な状況をつくり、ボールをつないでシュートが打ちやすくなるように考えた。その中で、個やチームの課題を話し合い、技能面とともにコミュニケーション能力の高まりがあることを期待している。そして、ハンドボールで身につけた動きなどを、球技を中心とした他領域の運動にも活用できるように身につけさせていきたいと考えている。

本学年の生徒は意欲的に授業に参加し、毎時間技能を向上させようと前向きな姿勢で取り組む者が多い。体育大会も終わり、学級ごと団結して良い雰囲気の中で学校生活を送っているが、自分の意見を口に出して言えなかったり、まわりの様子をうかがってしまったり積極的に活動に取り組めないといった、コミュニケーション力が不十分であると感ずることがある。

そこで毎時間、各チームにミニ黒板を与えてゲームの振り返りや作戦を立てる時間を作った。運動量の確保を大切にしながら保健体育科においてコミュニケーション力を育成し、人間関係の構築に努めながら技能の向上を図っていくこととした。

### (4) 実践の手立てと生徒の反応

単元指導計画に基づき実践を進めていったが、学級の実態などに合わせて学習活動を変更しながら行った。ここでは、主に毎時間ごとに提出する学習カードを用いて、生徒の反応を手立てに沿って検証していきたい。

#### ① 1/7 時間目

オリエンテーションが主な学習活動であったが、あらかじめ私が決めておいたチーム編成を発表し、初顔合わせを行いながらキャプテンを決めるように働きかけた。チームによって決め方は異なっていたが、コミュニケーションを交わしながら良い雰囲気で行っていた。その後、試しのゲームを行い、初めてチームでの振り返り活動を行い、チームごと全体の場で発表を行

った。

<生徒の感想>

「初めてやってみて意外と簡単だった」「ルールとかはバスケットに似ていた」「次からは作戦を立てて頑張りたい」「もっと練習したい」

#### ② 2/7 時間目

本時は基礎・基本となるパス・キャッチを行い、今後毎時間行う運動とした。1時間目の課題として「ボールがある場所に固まってしまう」ことを提示し、チームを分けて鬼ごっこなどの運動を行った。ゲーム前に作戦会議を行い、生徒たちの真剣に考える姿が見られた。

<生徒の感想>

「パスをするときに相手の子の名前を呼んでからパスをすると相手分かる」「今日は班で考えた作戦をやりました。そしたらスムーズにパスが回り、シュートを決めることができた」「いろんな作戦を考えたい」

#### ③ 3/7 時間目

2時間目とほぼ同様の運動を行ったが、生徒の運動中でも積極的に止めて、全体に指導を行うように心がけた。また3時間目は作戦会議などの関わり合いの時間をとることはできなかった。その結果、どこか生徒たちにも慣れが生じてしまい、前回と比べると身が入らない一面も見られた。

<生徒の感想>

「この前は上手くいったのに、またキャッチができなくなってしまった」「しっかりとボールを見て確実にキャッチしていきたい」

#### ④ 4/7 時間目

本時はゲームの時間を多めに設定した。この頃から、チームでの対抗意識も芽生え始め、まとまって動くようになってきた。本時のゲーム前と次時のゲームに向けての作戦会議を2回設定した。生徒たちは図や箇条書きなどを用いて、分かりやすくミニ黒板に書いて考えていた。

<生徒の感想>

「チームのみんなと協力できた」「チームの仲間を見ていきたい」「自分たちで考えた作戦がすごくよかった」

#### ⑤ 5/7 時間目 (研究実践)

私が行う最後の授業であったため、生徒たちもこれまでで1番動きがよかった。練習・ゲームと積極的に動き、生徒たちも満足した様子であった。最後の振り返り活動では、オフENSEの課題と次回の作戦に絞って会議を行ったが、チーム全員で輪になって話し合い活動を行っていた。

<生徒の感想>

「何回もロングパスを出すとボールに触れられない子も出てくるので気をつけたい」「作戦会議の通りにやってみただけ、上手くいく時とだめ時があったので他にも色々試してみたい」「作戦通りにできた、周りを見て自分がどこにいたらいいのかも分かっていた方がゴールしやすくなる」

## (5) ハンドボールの単元全体を通して

球技の中でもハンドボールは、サッカーやバスケットボールに比べてマイナーな運動であるかもしれない。また、生徒たちはスポーツテストのハンドボール投げでしかボールに触ったことがなかった。まずは、生徒たちに興味・関心をもたせるために攻撃を重視し、ゴールを決める楽しさを味わってほしいと考えて授業を展開した。ルールは簡易的なものにし、コートもバスケットボールと同じ広さにした。班は私が決め、比較的人間関係の問題がないように担当の先生と相談させていただき、慎重に決めた。

私の当初の考えでは、ゲームは単元の中盤から終盤にかけて行えばよいのではないかと考え、単元指導計画を作成した。しかし、第1時間目に試しのゲームを行ったことで、生徒たちもゲームなしの授業では意欲が低く、その後も継続して、ミニゲームやルールを簡易化したゲーム（オフENS有利なゲームなど）を続けるべきであると実感した。また、各時間の段階を経たゲームでは、行う前に基礎的・基本的な技能を指導し、教師側のおさえが必要である。その練習をゲームに直接生かすことができるように、練習とゲームのつながりを明確にした授業展開や指導方法の工夫が必要である。

また、授業内になるべく一度はチーム内で作戦会議などのコミュニケーションをもたせ、ミニ黒板を囲んで練習やゲーム内容について話し合わせた。また、練習内容も仲間との関わり合いがもてるように、パスの際に声を出すなど工夫した。その結果、最初はチームに溶け込めず作戦会議の輪の中にも入れなかった生徒が、徐々に入ることができるようになった。

## (6) 実践の成果と課題

### ① 成果

実践の成果については、以下のようにまとめることができる。

- ア ミニ黒板を使ってチームで作戦会議などを行うことにより、人間関係形成力が育まれた。
- イ 仲間の輪に入れなかった生徒が入れるようになった。

今回の実践では、チームでの作戦会議をなるべく多く設定し、コミュニケーションを交わしながらチーム内の人間関係を形成してほしいと考えていた。実際に作戦会議などの関わり合いがきっかけとなって、チー

ム内で練習する際に自然と声をかけ合ったりアドバイスし合ったりする姿が見られた。

また、最初は作戦会議に参加できず後ろから眺めていただけの生徒も、仲間の温かい支援を受けながら輪に入ることができた。体育における言語活動はゲーム内での声かけなども含まれると考えられ、名前を呼び合うなど些細なことではあるが、人間関係を左右し学習意欲にも深く関わってくると考えている。

以上のことから、授業における雰囲気づくりや日頃の人間関係づくりが非常に大切であることが分かる。日々の学校生活の様子が、教科指導と密接に関わっていることを改めて実感した。

### ② 課題

実践の課題については、以下のようにまとめることができる。

- ア 運動量の確保の観点から、実際に言語活動の時間を毎時間導入することは難しかった。
- イ 計画通りに授業は展開できず、個々の支援が不足していた。
- ウ 一単元だけでなく年間を通した計画的な見通しが必要である。

体育の授業において言語活動を積極的に取り入れるのは難しいという印象を受けた。その理由として、「運動量の確保」を考える必要があるためである。作戦会議などの話し合い活動ばかり行っているのは、体育の授業としての目標を達成することができない。実際今回の実践においても、生徒たちが作戦を立てる時間やゲームを振り返る時間は授業後のわずかな時間であった。

また、今回の実習前に単元指導計画を作成し、先生方のご助言をいただきながら実際の指導にあたったが、計画通りに進まないのが現実であるということが理解できた。私が予想していた反応や技能のレベルとは異なる部分が多くあり、実際には1回授業を行うごとに振り返り、次の授業を組み立てることがほとんどであった。そうすることで、生徒たちの反応も良くなり、その学級や生徒たちの実態にあった授業を展開することができる。また、雨天で保健に振り替わり、計画が変わることもあった。体育は特に天候に左右されるので、臨機応変な力と十分な授業準備（教材研究など）が必要であることが分かった。

今回は実践したハンドボールの単元でのみ作戦会議などの言語活動を取り入れて実践したが、本来ならば年間を通してどの領域の運動においても導入していく必要がある。これは学級経営と同様で、どのような生徒を育てていきたいかという教師の見通しや願いを指導にあてることで、生徒側の力も変化していくことが分かった。



## 5. 本実践の成果と課題

### (1) 実践の手立てと工夫

今回の2つの実践について、私自身がルールを決めたり、ペアやグループを決めたりした。これは、これまでの人間関係を観察してきた結果から、最善の状態を作り出したつもりである。リーダーを中心にコミュニケーションが活発になるように工夫した。今後、現場では全ての場面において教師側が気遣って決めていくことは難しいが、今後も人間関係を十分に把握した上で、指導にあたっていくことを心がけていきたい。

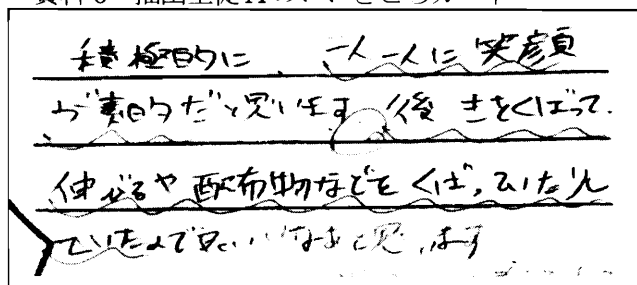
また、コミュニケーション力や「集団適応能力、自己理解能力」<sup>3)</sup>などの人間関係形成に関わる社会性を意識し実践を行ってきた。2つの実践を行ったことで、生徒たちは学級の仲間と関わり合いながら成長してきたといえる。

### (2) 抽出生徒Aの変化

担当学級内には仲間たちと上手く関わることができず、特定の生徒以外に壁を作ってしまいう生徒がいる。今回抽出生徒として設定した女子生徒Aは、遅刻が目立ちやや不登校ぎみであった。学校生活や授業においてもどこか不安定で、保健室が1番落ち着くという生徒である。平成22年5月に実習校で行われた「学校生活アンケート」においても、「学校生活が楽しくない」と回答していた。

「いいところカード」の実践において生徒Aは、積極的に取り組み、具体的な内容を記述することができていた。しかし、交換する際や仲間と関わる際には笑顔があまり見られなかったり、やらされているという印象が見られたりした。それでも、一度もサボることなく実践を行った。資料6は生徒Aが仲間に対して書いた実際のいいところカードである。具体的な記述ができており、交換する際にも笑顔でコミュニケーションをとることができていたのが印象的である。

資料6 抽出生徒Aのいいところカード



また、ハンドボールの実践では、最初はやる気が見られず「楽しくない」と集団に入りたがらず、動きも消極的であった。しかし、リーダーを中心に声をかけ合い、仲間との作戦会議を行うにつれて、生徒Aにもゴールを最終的に決めるオフェンスの役割が与えられ

た。生徒Aは仲間にも支えられながら、研究実践の授業では楽しそうに笑顔で運動する姿が見られた。私が「今日のハンドボールはどうだった？」と聞くと「まあまあ」と答えるほどにもなっていた。資料7は生徒Aが授業の最後に書いた感想である。「みんなで協力してパスをつなぎながらゴール（前）に入ることができました」と仲間との協調性を感じながらハンドボールを行ったことが分かる。

資料7 抽出生徒Aのハンドボール学習カード

単元を覚えて	THROW OFF / ハンドボール
私は、ハンドボールの練習が楽しくて、友達と協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。
練習では、みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。
練習では、みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。
練習では、みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。
練習では、みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。
練習では、みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。
練習では、みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。	みんなと協力してパスをつなぎながらゴールに入ることができました。

仲間との関わり合いから生まれた生徒Aの変化は、直接目で確認できるものであった。生徒Aにとってもその周りで関わり合った仲間にとっても、一緒に成長していく上で非常に意味のあった実践であったと考えられる。

### (3) 「いいところカード」と「ハンドボール」との実践を通して

いいところカードを実践した学級の生徒たちは、他学級の生徒に比べて人間関係が良いと感じた。生徒のいいところカードの実践で育んだ自己肯定感や人間関係形成力、コミュニケーション力などが、ハンドボールの実践においても効果が表れた。ハンドボールは学級内でチームを分けたが、いいところカードを実践した学級はどのチームもコミュニケーションを通して他者との関わりを深めていた。実際に、生徒が行った作戦会議などの様子を見てみると、他者の意見を批判することなく尊重している場面が見られた。これは、学級内で良好な人間関係が形成されており、授業においても生徒の身につけた力が発揮されているといえる。

ここから、学級づくりと授業づくりが密接に関わりをもっていることが分かり、2つのつながりが非常に大切であるといえる。学級で身につけた人間関係形成力やコミュニケーション力などは、授業づくりの基盤となっており、それを生徒が発揮するための場の設定を行うことが教師にとって必要である。

## 6. おわりに -4月から教師として-

2年間の学びを経て、4月から実際に教師として現場に出る。これまでの実習とは違い、私自身の行動や言動の一つ一つに責任が伴う。教職に対して何事も熱心に取り組み、決して子どもたちを裏切らないように私も日々努力をし続けていきたい。

また、学級においても教科指導においても私自身が長期的な視点を持ち、育てたい子ども像をしっかりともった上で指導にあたりたい。そのためには、教材研究などの準備を怠ることなく、自信をもって教師の職務を全うしていきたいと考えている。初任としての役割を再確認し、先生方と連携を図り、教職員全員で子どもを育てることを大切にしていきたい。

### 【付記】

大学院2年間の実習は、以下の学校で行わせていただいた。

<学校サポーター活動><教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ>

豊橋市立豊岡中学校 (大野周一校長先生)

<特別課題実習>

豊田市立東保見小学校 (新見隆一校長先生)

<多様なフィールド実習>

豊橋市中央図書館

<教師力向上実習Ⅲ>

西尾市立吉良中学校 (石川隆校長先生)

尚、実習中は多くの先生方にご指導ご助言を頂きました。今回この場で、お世話になりました全ての方のお名前を挙げることはできませんが、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、学校サポーター活動でご指導下さった中妻雅彦先生、教師力向上実習Ⅰ・Ⅱでご指導下さった白井正康・佐藤洋一先生、多様なフィールド実習でご指導下さった萬屋育子先生、教師力向上実習Ⅲでご指導下さった志水廣先生、修了報告書で熱心にご指導下さった白井正康先生に心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

### 【注記】

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(東洋館出版社・2008.9)
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』(東洋館出版社・2008.10)
- 3) 高階玲治編著『豊かな心を育てる「社会性育成力」』(ぎょうせい・2005.5)

### 【主要な参考文献】

#### 1. 新学習指導要領関係

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』

(東洋館出版社・2008.8)

- (2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』(東洋館出版社・2008.9)

- (3) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(東洋館出版社・2008.9)

- (4) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』(東洋館出版社・2008.9)

- (5) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』(東洋館出版社・2008.10)

- (6) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』(東洋館出版社・2009.12)

- (7) 文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm) ・2011.1.12)

#### 2. 社会性に関わる文献

- (1) 文部科学省編『文部科学白書 平成21年度』(佐伯印刷・2010.6)

- (2) 高階玲治編著『豊かな心を育てる「社会性育成力」』(ぎょうせい・2005.5)

- (3) 『授業力&学級統率力』2011年7月号(明治図書・2011.6)

- (4) 学校教育課題研究会編著『教育課題便覧<平成24年版>』(学陽書房・2011.6)

- (5) 福山孝弘著『教育の最新事情がよくわかる本2』(教育開発研究所・2011.6)

- (6) 河村茂雄著『学級づくりのためのQ-U入門』(図書文化・2006.6)

- (7) 江川政成・高橋勝・葉養正明・望月重信編『最新教育キーワード』(時事通信出版局・2009.12)

#### 3. 保健体育科に関わる文献

- (1) 宇土正彦代表著『新版図説中学校体育 愛知県版』(大日本図書・2010.3)

- (2) 中学校保健体育ノート編集委員会編『新版中学校保健体育ノート2』(大日本図書・2005.11)

- (3) 根本正雄著『“男女一緒に楽しめるハンドボール”新ドリル』(明治図書・2003.7)

- (4) 愛知教育大学附属岡崎中学校『次代を創るー学びを深め合う授業の実現からー』(2010.10 公開授業資料)

- (5) 『体育科教育』2008年6月号(大修館書店・2008.5)

- (6) 『体育科教育』2009年3月号(大修館書店・2009.2)

- (7) 『体育科教育別冊24』2010.2(大修館書店・2010.1)

- (8) 『体育科教育』2011年10月号(大修館書店・2011.9)